

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	12-054	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
<p>Alcohol, genetics and risk of breast cancer in the Prostate, Lung, Colorectal and Ovarian (PLCO) Cancer Screening Trial.</p> <p>Prostate, Lung, Colorectal and Ovarian (PLCO) Cancer Screening Trial におけるアルコール、遺伝子と乳がんのリスク</p>		
執筆者		
McCarty CA, Reding DJ, Commins J, Williams C, Yeager M, Burmester JK, Schairer C, Ziegler RG.		
掲載誌		
Breast Cancer Res Treat. 2012 Jun;133(2):785-92.		
キーワード		
アルコール、遺伝子、乳がんのリス、PLCO Cancer Screening Trial		
要 旨		
<p>目的：</p> <p>本研究ではアルコールを分解する経路に含まれている遺伝子が、アルコール摂取と乳がんの間に関係があるという仮説について検討した。</p> <p>方法：</p> <p>Prostate, Lung, Colorectal, and Ovarian (PLCO) Cancer Screening Trial.に参加したベースライン時に 55～74 歳の女性を対象とした。乳がんの発症は年一回の健康調査で同定した。参加時の年齢と参加した年によってケースとコントロールをマッチングした。自記式 of 食物摂取質問表では、ビール、ワイン、ワインクーラー、蒸留酒のそれぞれの飲酒量と回数を質問した。アルコール代謝にかかわる遺伝子(アルコール脱水素酵素[ADH]1b, ADH3, and CYP2E1.)の 3 つの SNP についてタイピングを行った。</p> <p>結果：</p> <p>本研究の参加者は乳がん患者 1,041 人、対照群 1,071 人であった。非飲酒者に比べてアルコールを少量でも飲酒する人は、有意な乳がんのリスク増加が確認された。このリスクは一日に 3 基準飲酒量(アメリカではアルコール量 14g 相当)以上の飲酒者で(オッズ比 2.01, 95%信頼区間 1.14, 3.53)であった。遺伝子のタイプで層別化すると有意な遺伝子環境相互関係がみられた。ADH1B では、すべてのアルコール摂取レベルにおいて乳がんのリスクとの 1.3 倍以上のオッズ比で有意な関連を認められたが、GA、AA の遺伝型ではアルコール飲酒量と乳がんとの有意な関係は認められなかった。</p> <p>結論：</p> <p>飲酒とアルコール代謝関連遺伝子とそれらの相互作用により閉経後の女性の乳がんのリスクを高めた。この結果はプライマリーケアの提供者にとって乳がんのリスク低下させることに関するより個別化された情報は有益である。</p>		